

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

#### (1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	544	△34.3
タッピンねじ	781	△41.8
ボルト	2,092	△30.6
座金組込ねじ	1,401	△39.0
その他	269	△55.0
合計	5,088	△37.1

(注) 1 金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 当社グループの製品は主として社内製作を行っているが、一部協力工場において外注加工を行っており、上記の数値には外注生産高が含まれております。

#### (2) 受注実績

当第1四半期連結会計期間における受注実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	723	△16.6	251	△20.0
タッピンねじ	769	△36.7	335	△41.4
ボルト	2,207	△30.7	894	△24.5
座金組込ねじ	1,575	△33.6	661	△33.2
その他	341	△41.8	133	△32.2
合計	5,616	△31.7	2,276	△30.1

(注) 1 金額は、販売価格によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績については、単一セグメントのため製品種類別に記載しております。

品種別	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
小ねじ	543	△34.7
タッピンねじ	784	△39.8
ボルト	2,056	△31.5
座金組込ねじ	1,421	△39.8
その他	297	△49.4
合計	5,103	△36.9

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	販売高(百万円)	割合(%)	販売高(百万円)	割合(%)
日産自動車(株)	2,375	29.4	1,897	37.2
スズキ(株)	938	11.6	699	13.7

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【事業等のリスク】

四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のものがあります。

なお、文中における将来に関する事項は、四半期報告書提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

### (1) 当社グループに係る市場の動向によるリスク

当社グループは自動車業界を主要取引先としております。従って当社グループの業績は、自動車業界全般の生産動向及び販売動向の影響を受ける可能性があります。

### (2) 原材料・部品の市況変動及び調達リスク

当社グループが、販売するねじ製品は、特殊鋼の線材を原材料としております。

鋼材取引の需給関係によって仕入れ価格が変動した場合、販売価格に完全に転嫁できない場合があり、当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。また、鋼材需要の大幅な増減により需給関係が逼迫する恐れが発生した場合、生産に必要な数量が必要な時期に納入されず、結果として当社グループの業績に悪影響を与えるリスクが存在します。

### (3) 当社グループの新製品、新技術が十分に実現し得ないリスク

当社グループの生産品目は、小ねじやタッピングねじが主力であります。今後の企業の発展のため高強度、高機能ボルトの高付加価値製品分野への投資を実施してまいります。その結果、生産及び品質並びに生産コストが顧客の要求を満足できないものとなった場合には、将来の成長と収益性を低下させ当社グループの業績と財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

## 3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

## 4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第1四半期におけるわが国経済は、一部で生産や株価の回復の兆しが見られたものの、世界的金融危機の影響は根強く、企業業績や民間設備投資等は、引き続き厳しい状況で推移いたしました。

当社グループにおきましても自動車業界をはじめとする関連各業界における生産減、需要減により厳しい状況で推移いたしました。その結果、当第1四半期連結会計期間の売上高は、前連結会計年度からの販売数量減少を主要因に5,103百万円(前年四半期同期比36.9%減)となりました。利益面におきましても、大幅な受注量の減少に対応するため原価低減諸施策を推進し合理化に努めましたが、売上高減少の影響をカバーできず、営業損益は、前第1四半期連結会計期間の188百万円の利益に対し、当第1四半期連結会計期間は△282百万円、経常損益は、前第1四半期連結会計期間の139百万円の利益に対し、当第1四半期連結会計期間は△308百万円、四半期純損益は、前第1四半期連結会計期間の△14百万円の損失に対し、当第1四半期連結会計期間は△215百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

資産の部については、流動資産が9,359百万円となり、前連結会計年度末に比べ97百万円の減少となりました。固定資産は7,250百万円となり、前連結会計年度末に比べ1百万円の減少となりました。

負債の部については、流動負債が6,888百万円となり、前連結会計年度末に比べ82百万円の増加となりました。固定負債は6,062百万円となり、前連結会計年度末に比べ54百万円の減少となりました。

純資産の部については、株主資本が3,458百万円となり、前連結会計年度末に比べ215百万円の減少となりました。評価・換算差額等は83百万円となり、前連結会計年度末に比べ103百万円の増加となりました。

少数株主持分は、116百万円となり、前連結会計年度末に比べ14百万円の減少となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ245百万円減少し、1,788百万円となりました。

当第1四半期連結会計期間末における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間末における営業活動による資金の増加は、335百万円となりました。

これは主に、減価償却費が182百万円、賞与引当金の増加125百万円、売上債権の増加116百万円、棚卸資産の減少119百万円、仕入債務の増加364百万円によるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間末における投資活動による資金の減少は、222百万円となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出222百万円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第1四半期連結会計期間末における財務活動による資金の減少は、358百万円となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出163百万円、短期借入金の純減少額253百万円等の資金の減少によるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間の研究開発費の総額は46百万円であります。